

平成 20 年 9 月 21 日

## 大統領殿 (Mr. President)

Asiz Zardari 大統領選を経て Pakistan 第一人者として浮上

増大する過激派暴力活動と制御不能の経済を制するのが彼の任務。疑問：彼は任務を本当に遂行するか？

9 月 9 日 イスラマバッドの大統領官邸の 5 F の Darbar Hall に入室した時、ザルダリはきりっとしたピン・ストライプの紺の洋服とダイヤモンドをあしらったネクタイ、髪を撫でつけ、満面の笑み、で参会した頭官貴紳達—アフガニスタン Hamid Karzai 大統領を含む—に頷いた。

数分後に、最高裁長官 Abdul Hameed Dogar—前大統領 Pervez Musharraf 将軍が昨年 11 月に解任した長官の後任として据え、ザルダリも庇護して社会活動家が切齒扼腕する人物—に Pakistan 第 12 代大統領として宣誓をした。

未検証ながら汚職と殺人容疑で長期間収監され、ザルダリ批判者から「国庫からの盗人」と評され、故 Benazir Bhutto に「Pakistan の Mandela」と賞された男の長い奇妙な人生である。1990 年代の PPP 政権で、2 方面の権限を持ち「Mr 10%」と悪評され、権力者 Benazir に厄災を及ぼす政界の厄介者としてしばしば糾弾された。然しながら、1996—2004 年の被収監時代、悪意を持った行政への対応で、ザルダリは意思堅固さとベナジールと党に対する忠誠で点数を稼いだ。

然し、2007 年 12 月 27 日のベナジールの暗殺前、ほんの 8 ヶ月半前に、彼が大統領になるうとは誰も予想しなかった。

ザルダリがこの 8 ヶ月間に明らかに示してきたように、彼は練達の政治家で政治的活動と駆引きの術を知っている。2 月 18 日の総選挙後彼の宿敵、元首相のシャリフを籠絡して PPP 政権に引込み無害化した。ムシャラフが解任した判事の復職というシャリフの要求に対し、おべっかを使いながらも遅延策を続けた。シャリフが最終条件を提示した時、共同の敵、ムシャラフを大統領から追出せば全ての障害が消えるとザルダリはシャリフを説き伏せた。

これを達成する為に、ザルダリは Zalmay Khalilzad などの米国ネオコンと密かに通じ、彼等がムシャラフに対する米国の支援打切りを Bush 政権に納得させた。その間に小会派と中間派に対しては、約束と直接褒賞の組み合わせで、彼等の支援を取り付けた。欲求不満のシャリフが与党連合政府から閣僚引き揚げた時までに、ザルダリは PPP 政府が生延び、大統領に昇る—ムシャラフ退任まではその可能性は世間に伏せて—の十分な外部からの支援を確実なものにし、9 月 6 日の大統領選で 702 投票中、過半数 352 票を遥かに超える 481 票を獲得した。

然し、ザルダリは厄介な衣鉢と某コメンテーターが「ぼうっと見える山並みのようだ」と評した諸問題を引継いだ。

大統領職は、論理的にはインドと同様に儀礼的なもので、国政執行実権は首相にあるが、ザルダリは PPP の co-chairman の地位を保持し独裁者ムシャラフの下で強化された大統領権限を引継いだので、パキスタンで現在誰が絶対者であるかは疑う余地がない。又、PPP 指導者を辞し、改正された憲法を元来の憲法に戻すようにと、ザルダリに対する多くの要望にも拘らず、ザルダリは単なる表看板になる気は無いようである。

極めて火急の 2 問題は、増大する過激派暴力活動とアフガニスタンに接するパキスタン北西部、特に連邦管轄部族地域 (FATA – Federally Administered Tribal Areas) に於ける Al Qaeda に対する戦争、と急降下中の経済である。元情報大臣で近時組織された Awami Muslim League の党首になった Sheikh Rashid は「パキスタンの最重要問題は FATA と ata(小麦粉)に集約される」と述べている。笑い事ではないのである。

Bajaur Agency 及び北西辺境地域の Swat Destrict などでの対過激派軍事作戦は効果を挙げてきているが、数百人の死者と数十万の流民を出している。加えて、米軍からの攻撃増—パキスタン大統領選後の 4 日間で 20 名の市民死亡を招いた前代未聞の米特殊軍のパキスタン領内での地上作戦と 4 発のミサイル攻撃—がパキスタン主権の侵害だとして世論の反発を招き、パキスタン軍の軍事作戦の障害になっている。

経済面では状況悪化。約 30%のインフレ率がさらに亢進しパキスタン・ルピーはこの 2 ヶ月で 25%以上も下落している。株式市場は 3 分の 1 下降し外貨備蓄高は 2007 年 12 月水準の半分に減少している。多くの地域で毎日 12 時間未満の停電があり、生産業は大きな損失と外貨獲得の輸出の減少に悩んでいる。

大統領就任当日一世銀と IMF から補助金削減要請の圧力で—政府は電力料金の 30%値上げを発表したが、これもインフレ亢進、生産業圧迫の要因になるだろう。財政赤字拡大と格付け低下は事態を悪化させてきているが、多くの経済専門家は政治不安が問題の根本原因であると見ている。「経済問題に対し首尾一貫した取り組みをしようとしてない」「政府にその能力があるかも疑問だが、現時点政争に巻き込まれ経済問題に留意を払うことさえしていないようだ」と政治エコノミスト Akbar Zaidi は指摘している。

そして、今後の政治的問題も多い。第一の問題は PPP と最も人口が多い Punjab で権力を握っているシャリフの Pakistan Muslim League—Nawaz(PML—N)との関係である。

自分達の強い本拠 Punjab で、シャリフは中央政府から自分達が下野したように PPP も州政権から閣僚を引揚げて下野するように要求しているが、PPP は Punjab 支配権の全面譲渡を渋っている。いずれにせよ、局面一変の如何なる試みも激しい反発を生じることになる。ザルダリの大統領立候補を支持した小会派も見返りの果実を待ち望んでいるし、

Iftikhar Chaudhry 問題—Iftikhar Chaudhry 復職は現最高裁長官 Dogar を降等させることになるので PPP は望まない—も亦、火種である。

近時、関係が冷却化している近隣諸国、インドやアフガニスタンなど、と如何ようにするかも問題である。ザルダリの就任式に、ザルダリの招待でカルザイが出席したことは新しい関係樹立への試みのようだ。然しながら、カルザイとパキスタン上層部とは友好関係が失せている、特に、カブールのインド大使館への今年初めの爆弾攻撃に関しカルザイが ISI(パキスタン陸軍情報部)を非難してからは。カルザイは最眞目にみても無力、インドと米国ネオコンの関心のお陰と多くの人が見ている。

大統領就任式後、ザルダリはインドとの裏チャンネルは維持されていることを明らかにし「インド国会内外の政治勢力関係で、一月かそこらで、国民会議派政権が総選挙に突入する前に、良いニュースがあるだろう」と焦らすように予想した。またもや混乱しているカシミール—パキスタン上層部さえも驚いている大騒ぎ—に関し、ムシャラフ将軍が条件受入れ且つ押し通そうとしたある種の譲歩を、強力なパキスタン軍上層部がやれるか疑問がある。

ザルダリの任務は諸問題を制することだが、大きな疑問は：彼は任務を遂行するか？

以 上

India Today 9月 22 日号  
By Hasan Zaidi in Karachi  
邦訳：インド・アジア開発